

鳥取東高通信

題字：柴山 抱海氏

第183号
令和2年12月

編集・発行
鳥取東高等学校PTA
鳥取県立鳥取東高等学校
印刷 日ノ丸印刷株式会社



第71回

東高祭

“離れていても僕らは一つ” # keep distance # 東高祭

* 3日目<3年生 タベのつどい>



東高生に期待すること

教頭 井上 祐一郎

後から振り返ってみたときに、この日の前と後では世界が一変してしまった、そんな忘れられない日付があります。生徒のみなさんにとってリアルな記憶は、平成23(2011)年3月11日ではないでしょうか。この日人類は、現代の高度に洗練された都市機能といえども、自然災害の直撃には全く耐えられないという、現実を改めて突きつけられました。加えて、保護者のみなさんや私にとっては、1989年11月9日や平成7(1995)年1月17日も、そのような日付ではないでしょうか。

そして、令和2(2020)年2月27日は、その一つとなるのかもしれませんが。この日、新型コロナウイルス感染症対策として、内閣総理大臣から全国の学校の一斉休業が要請されました。発生したとされる武漢市の都市封鎖(1月23日)、WHOのパンデミック相当との見解(3月11日)、各国の都市封鎖(3月中旬以降)と情勢が刻々と変わっていきましたが、2月27日の要請は、人類が未だ免疫を獲得していない新型感染症の急激な拡大に対処するために、自由や法的な権限解釈を一時的に留保するという対応がなされたものです。対応の是非に検証は必要ですが、新型の感染症は、今後も必ず発生しますので、次の脅威への対応は「課題」として引き続いて存在していきます。

世界が変化するような大きな事件の最中は、いわゆる「正解がない課題」たちがあちこちで突発的に起こっています。「正解がない課題」への対応とは、「bestな解」はすぐには見つけられない中で、「よりbetterな解を求め続ける」ことだと思います。東高生のみなさんに、これを期待したいと思います。大変そうに感じるかもしれませんが、きっとすぐにできます。今年の各行事、中止することはいつでもできる中で、対応策を求め続けそれぞれの行事の実施に立ち向かっていった生徒のみなさんの経験そのものですから。



新しい自分に

PTA副会長 安岡 裕明

「最近はお客さんの質が変わりました。本質を考える人が増えました。」先日、行きつけの美容院での話。「これが今必要な物なのか、今買わないといけない物なのかとか、これは今しないといけないことなのかとか、考える人が多くなりました…。」

この1年、私たちは「変わることを余儀なくされました。こんなに激変と困難が待ち受けるとは、おそらく誰も想像だにしていなかったでしょう。しかし、私たち人間には、前を向いて生きていく強い力があることを改めて知りました。こうするはず、こうあるべき…という従来の姿、様式、スタイルを思い切ってチェンジしてみると、意外と簡単に変えられたり、案外その方がよかったり、そういう新しい発見もあったと思います。新しいものを生み出し、新しいスタイルを構築し、新しい生き方を創造していく…、人って本当に素晴らしいなと思いました。

「これって高校生にも通じることですよね。その大学が本当に行きたい大学なのか、本当に学びたいことなのかとか…。とりあえず大学に行って…ではなく、自分の目的をはっきりさせて臨んでいかないといけないですね…」

今、新しいアイデアがこの世界をどんどん変えていっています。高校生の皆さん、これからは皆さんの出番です。今まで培ってきたことを、新しい社会のためにどんどんアウトプットしていきましょう。皆さんの中に隠されている素晴らしいエネルギー、アイデアをどんどん出していき楽しみを、ぜひ感じてください。そして、楽しんでください。そういう若い人たちの新しいエネルギーが発揮される社会こそ、これから求められる社会だと思います。皆さんの明るくポジティブに生き抜く姿こそが、新しい社会を創っていく源になるのです。

がんばりましょう。

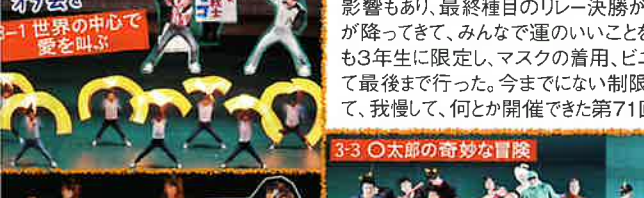
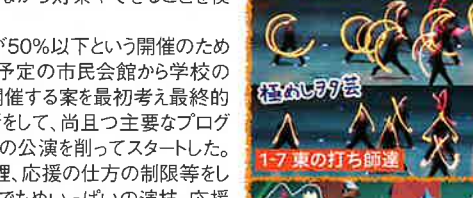
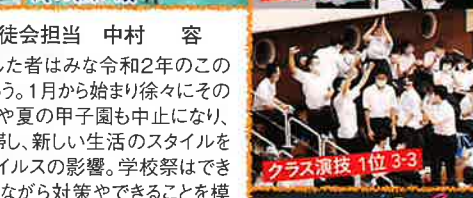
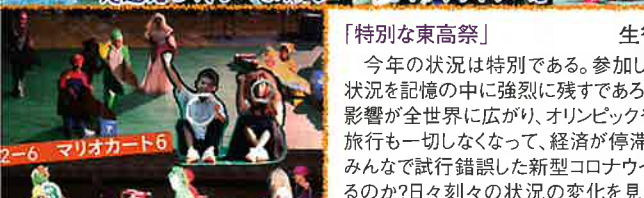
2020.

8/31

mon.

東高祭 1 日目

鳥取産業体育館



「特別な東高祭」 生徒会担当 中村 容

今年の状況は特別である。参加した者はみな令和2年のこの状況を記憶の中に強烈に残すであろう。1月から始まり徐々にその影響が全世界に広がり、オリンピックや夏の甲子園も中止になり、旅行も一切なくなって、経済が停滞し、新しい生活のスタイルをみんなで試行錯誤した新型コロナウイルスの影響。学校祭はできるのか?日々刻々の状況の変化を見ながら対策やできることを模索しながら行った東高祭であった。

初日は使用する施設の収容人数が50%以下という開催のための制限をどうするかということで当初予定の市民会館から学校の体育館で時間をずらして学年ごとで開催する案を最初考え最終的に産業体育館で開催するという判断をして、尚且つ主要なプログラムであった合唱コンクール、演劇部の公演を削ってスタートした。入場時のマスク制限、検温、体調管理、応援の仕方の制限等をしていった。生徒たちはそのような中でもめいばいの演技、応援で充実した初日となった。2日目は校内で、1年は新企画の巨大迷路、2年生は教室でのクイズ、3年生は模擬店といった催しが通常の学校祭では2日目に行うクラス演技を初日にもっていったことでゆったりと行えた。コロナ対策の基本である“密を避ける”ことを念頭に置いた配置や時間設定となったが、楽しめたものとなったようである。3日目の体育祭も一人1種目は出る競技があること、接触がない競技にすることなどで競技を工夫して行った。台風の影響もあり、最終種目のリレー決勝が終わったと同時に猛烈な雨が降ってきて、みんなで運のいいことを喜んだ。また、タベのつども3年生に限定し、マスクの着用、ビニール手袋とまめな消毒をして最後まで行った。今までにない制限を受けた状況の中で工夫して、我慢して、何とか開催できた第71回東高祭であった。

3-3 ○太郎の奇妙な冒険



3-4 SOMAgic Fantasy



2-3 沈黙



1-6 THC(鳥取東コレクション)



2-4 つかまえて



東高祭 2日目



出陣! 海洋生物
ドキドキの海の中
巨大迷路 1-1 「海」



どうぶつの森 東高ver.
巨大迷路 1-4 「動物園とチベスナ」



巨大迷路 1-7 「神秘的森」 さあ探検に出かけよう!



巨大迷路 1-3 「ポケモンのダンジョン」



higashigram

東 higashiko_00

いいね! 1841 件

#東高祭 #2日目 #マスクしても分かる #ドヤ顔 #若いうちがいいな #一生バリバ



巨大迷路 1-2 「水族館」

魚・風川! 小学生に戻る



巨大迷路 1-6 「おかしな国」

甘〜いあれ? 出口どこ



タラウラッラ〜♪
レベルが上がった!



巨大迷路 1-5 「ドラゴンクエスト」



クリエーション 2-1 「新感覚お化け屋敷」



足裏いえる...
いや、はがん
クリエーション 2-2 「足つぼの間」



時を戻そう
クリエーション 2-4 「青春喫茶クリエーション」



見えない敵とも闘え!!
クリエーション 2-5 「バイオハザードV」



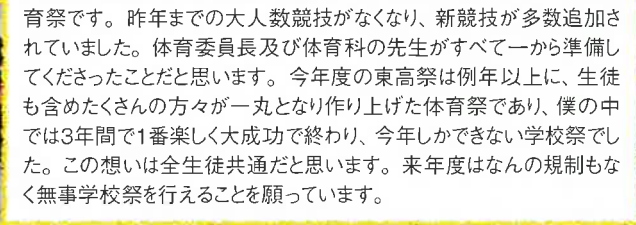
味よい笑顔よし
1組力作!
模擬店 3-1 「食ってか? 愛情友情詰めたぜよ」

今年だからこそ 前期生徒会長 3年3組 杉本 優心

「ソーシャルディスタンス」。準備期間から当日も含めこの言葉で埋め尽くされた学校祭です。合唱がなくなり、タベの集いを3年生だけで行うなど様々な規制のもとで行われました。僕たち3年生にとっては最後の学校祭であり、この現状に不満を持つ生徒もたくさんいたと思います。しかし学校祭を行えた事自体が奇跡であり、そのためにたくさんの方が努力をしてくださいました。印象に残ったのは3日目の体育祭です。昨年までの大人数競技がなくなり、新競技が多数追加されていました。体育委員長及び体育科の先生がすべて一から準備してくださったことだと思います。今年度の東高祭は例年以上に、生徒も含めたくさんの方が一丸となり作り上げた体育祭であり、僕の中では3年間で1番楽しく大成功で終わり、今年しかできない学校祭でした。この想いは全生徒共通だと思います。来年度はなんの規制もなく無事学校祭を行えることを願っています。



模擬店 3-2 「やばいたこ焼き屋さん」



模擬店 3-5 「漢の焼き鳥〜丹精込めて育てました〜」



クリエーション 2-7 「呪われた2-7」



模擬店 3-3 「おでんご〜私も連れてって〜」



模擬店 3-4 「ミチミチ モッチー」



模擬店 3-6 「漢の焼きそば(ときどき乙女心)」



模擬店 3-7 「#ななくみとチュロスしか勝たん」



クリエーション 2-6 「Bar Chigusa」



クリエーション 2-3 「バンクボーリング」



今日のゲストは
嵐の5人です!

2020.

9/1

tue.

東高祭 2日目

鳥取東高校校内



music factory | Engawa no Sotogawa



music factory | HISY



キレッキレ!



music factory | 熊田 遼佑



music factory | 瀧 (飛び入り)



music factory | 田中 健輔



music factory | 女子サッカー部



music factory | 日和20



music factory | 打ち上げ花火

(米津玄師)

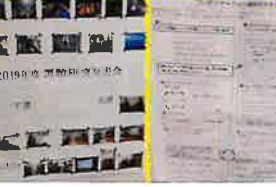
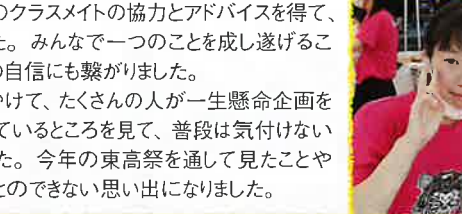
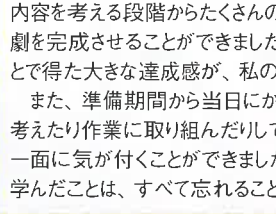
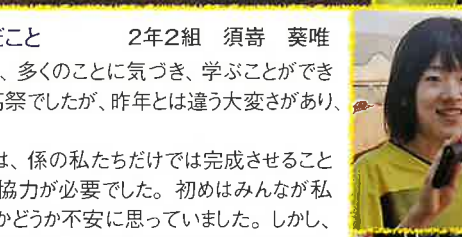
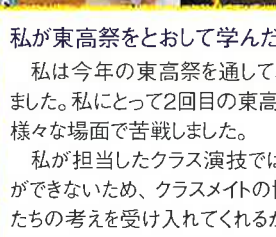


music factory | 女子サッカー部



music factory | 三橋さん・澤田さん

安定の歌唱力☆



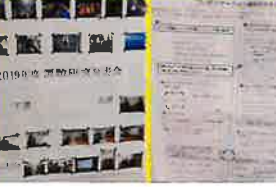
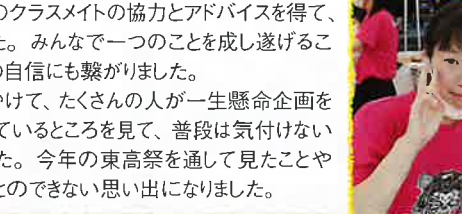
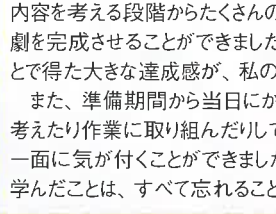
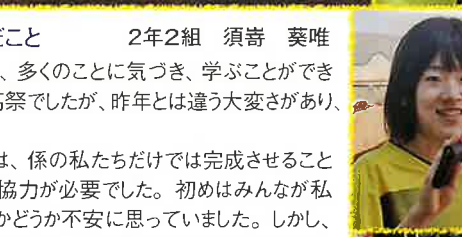
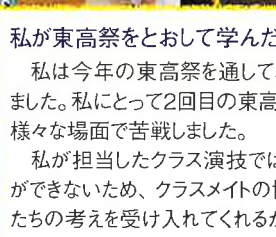
私が東高祭をととして学んだこと

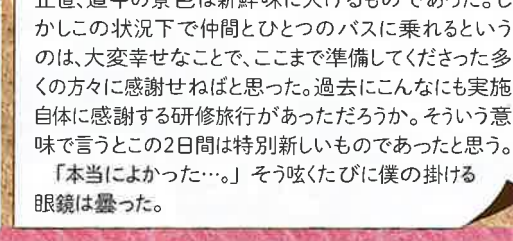
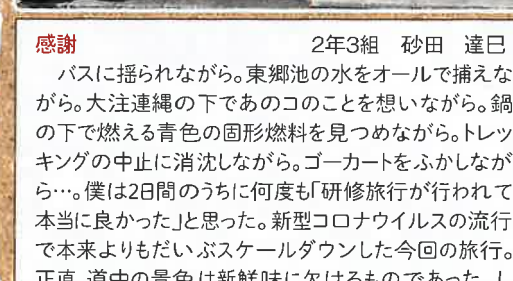
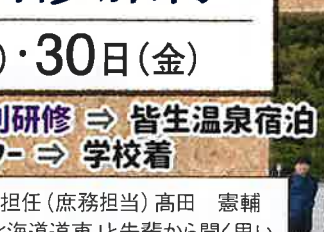
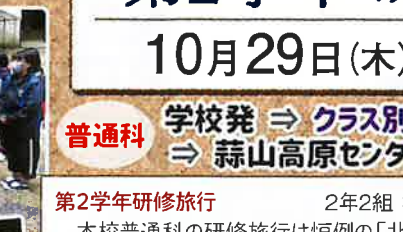
2年2組 須寄 葵唯

私は今年の東高祭を通して、多くのことに気づき、学ぶことができました。私にとって2回目の東高祭でしたが、昨年とは違う大変さがあり、様々な場面で苦戦しました。

私が担当したクラス演技では、係の私たちだけでは完成させることができないため、クラスメイトの協力が必要でした。初めはみんなが私たちの考えを受け入れてくれるかどうか不安に思っていました。しかし、内容を考える段階からたくさんのクラスメイトの協力とアドバイスを得て、劇を完成させることができました。みんなで一つのことを成し遂げることで得た大きな達成感が、私の自信にも繋がりました。

また、準備期間から当日にかけて、たくさんの人が一生懸命企画を考えたり作業に取り組んだりしているところを見て、普段は気付けない一面に気が付くことができました。今年の東高祭を通して見たことや学んだことは、すべて忘れることのできない思い出になりました。





2-1

出雲大社 ⇒ 島根ワイナリー ⇒
⇒ 皆生カヤック・サイクリング

第2学年 研修旅行

10月29日(木)・30日(金)

普通科 学校発 ⇒ クラス別研修 ⇒ 皆生温泉宿泊 ⇒
⇒ 蒜山高原センター ⇒ 学校着

第2学年研修旅行

2年2組 担任(庶務担当) 高田 憲輔

本校普通科の研修旅行は恒例の「北海道道東」と先輩から聞く思い出話に生徒の誰もが期待しただろう。今年は経済社会だけでなく、学校では子どもたちの活動も制限され、研修旅行も例外ではなかった。コロナ禍にありながら、計画を変更してでも実施に至ったのはある意味奇跡。生徒、保護者、教員集団の思いによるところだけでなく、企画していただいた東武トップツアーズさんをはじめ、安全、無事に受け入れてくださった県内外の施設のスタッフの皆さんのお陰であると心から感謝を申し上げたい。県内ではシーカヤック、ドラゴンカヌー、投入堂、島根県では堀川遊覧や松江城、出雲大社散策など、各クラスで生徒が研修先を決定し、宿泊はある意味「近くて遠かった皆生」の各宿で仲間とともに貴重な時間を過ごした。本来ではなかった1泊2日の研修旅行だったかもしれないが、この一瞬の体験を将来まで長く語っていけるよう、私自身も投入堂体験者体験の草鞋とともに、思い出を大切にしまっておこう。

2-2

三徳山投入堂 ⇒ ハワイ夢広場 ⇒ 出雲大社

感謝

2年3組 砂田 達巳

バスに揺られながら。東郷池の水をオールで捕えながら。大注連縄の下であのコのことを想いながら。鍋の下で燃える青色の固形燃料を見つめながら。トレッキングの中止に消沈しながら。ゴーカートをふかしながら…。僕は2日間のうちに何度も「研修旅行が行われて本当に良かった」と思った。新型コロナウイルスの流行で本来よりもだいたいバススケールダウンした今回の旅行。正直、道中の景色は新鮮味に欠けるものであった。しかしこの状況下で仲間とひとつのバスに乗れるというのは、大変幸せなことで、ここまで準備してくださった多くの方々に感謝せねばと思った。過去にこんなに実施自体に感謝する研修旅行があったらどうか。そういう意味で言うとこの2日間は特別新しいものであったと思う。「本当によかった…。」そう呟くたびに僕の掛ける眼鏡は曇った。

2-3 東郷湖ドラゴシカヌー ⇒
⇒ ハワイ夢広場 ⇒ 出雲大社